

## 報告

ニュージーランドの医療と病診連携  
——「リエゾン GP」の存在

板東 浩 (日本プライマリ・ケア学会国際交流委員会, 徳島大学・第1内科)

## 質の高いNZの医療の特徴

## はじめに

プライマリ・ケア (PC) 医学をめざす医師は、世界家庭医学会 (WONCA) に属している。本年6月に WONCA アジア太平洋地域国際会議がニュージーランド (NZ) で開催された。その際に、NZ の医療や、病診連携を担う General Practitioner (GP) である「リエゾン GP」を視察できたので報告する。

## WONCA 国際会議

NZ 家庭医学会 (Royal NZ College of GP, RNZCGP) が主催した WONCA 国際会議の今回のテーマは、「新しい世紀に向けての総合診療」。このテーマの下、世界から約 800 人、本邦から 40 名以上が参加し、講演やワークショップ、教育セミナーなど、さまざまな企画が行われた。なお、2005 年 5 月には日本プライマリ・ケア学会が国際会議を担当する。

## パッチ・アダムス氏の講演

基調講演は、Patch Adams 氏による「ケアすることの喜び」。氏は映画「パッチ・アダムス」(ロビン・ウィリアムス主演、1998 年、アメリカ)の主人公のモデルとして、ヒューマニティ溢れるケアの実践でよく知られている。筆者は 15 年前に米国の family practice residency program で臨床研修をした。その時、医学校で講演した Adams 氏と面談。「人を理解するためには、何時間もかけて話し合うのだ」という氏の言葉は、今でも私の心に刻み込まれている。今回は「人間としてケアをいかに考えるべきか」を私たちに示唆した。

## GP コース

NZ の医学教育は 6 年で、卒業後にはインターンシップ 1 年と GP 養成コース 1 年が必要である。病院で数年の研修を積んだ後に開業する GP が一般的だ。本邦と比べ

て、開業時の経済的負担は大きくない。グループ診療が多く、診察室の設備は検眼鏡、血圧計などで、必要な検査は病院で実施するからである。

## 医療施設

WONCA 国際会議が開かれたクライストチャーチ (Christchurch, CC) の人口は 35 万人で、公立の CC 病院、Women's 病院、高齢者病院、2 つの私立病院がある。他に、GP や専門医の診療所やナースングホームなどがあるが、GP は 250 人なので、GP 1 人が 1400 人をカバーしていることになる。イギリスと異なり、住民は自由に医師を選択できる。

## NZ の医療の特徴

NZ の医療を考える時、その健康問題が急性 (acute) かどうかがポイントになる。急性な病態はすべて公立病院の救急部 (Emergency Room, ER) で対処され、入院費用も含めすべて無料である。急性でないものは、公立・私立病院、診療所などいづれで診療を受けてもよい。

NZ の国民の多くは健康保険に加入していない。国の健康保険はなく、希望者は個人的な保険で私立病院を利用できる。

患者の医療費は収入に応じて異なる。国民の約 35% は所得が少なく、カードを持ち、カードを示せばすべて無料になる。カード保持者は米国のメディケイド対象者と似ているが、NZ では医療の質が高いという点で異なるという。国民の約 65% は、収入に応じて 1 回の診療で 15—35 NZ ドルを国が負担する。なお、1 NZ ドルは日本円で約 50 円である。

## 医療費の高騰

NZ 国民の税金は、年間収入が 3 万 5000 NZ ドル未満では一律 24%、以上では 35% である。約 15 年前から 10% の間接税制度が始まり、現在は 12.5% となった。

NZ 政府は従来から医療費の多くを負担してきた。しかし、医療予算が高騰してきた最近では薬価を毎年下げたり、同じ成分の薬で薬価が違う場合は安い額で支払ったりしている。これらの政策は市場原理に反しており、選択の幅が狭まりさまざまなリスクを伴う。数年後にはマイナス 20—30% の市場になる可能性も危惧されている。



●板東 浩氏

## NZ 独特の医療制度「リエゾン GP」

## GP 組織の動向

GP は gatekeeper の役割を担い、必要な場合に患者を公立病院 ER に紹介することが多い。急性でない病態で心臓を精査する場合、心臓病専門医御中と紹介し、数人いるスペシャリストの 1 人に回されるというシステムがある。患者はカードがあれば無料で、なければ 30 NZ ドルを支払う。

従来、GP は個々に国へ診療報酬を請求し煩雑であった。最近、Independent Provider Associations (IPAs) という GP の共同組織が増加している。IPAs が事務的手続きを代行し、国→IPAs→GP と診療報酬が動く。IPAs は国からグラントを受け、一般大衆への健康保険活動なども行なう。GP には有益な情報が入るので、IPAs に入会する GP が増えつつある。

## リエゾン GP

NZ の医療で特徴的な制度が「リエゾン GP」で、RNZCGP から Jamison 医師を紹介された。彼は自分のオフィスで GP として診療する他に、GP と CC 病院 ER の間でリエゾンの役割を担っている。まさに病診連携のキーパーソンだ。その役割は、①CC 病院の ER や病棟担当医と、GP との相互のコミュニケーションを取り持つ ②患者の希望や相談に応じ、担当の GP に適切な対処を依頼する ③非公式に GP と連絡を取りあい、該当患者のマネージメントについて相談するなどである。彼は週に 2.5 日 CC 病院の ER に勤務し、他の 2 名の GP とこの役職をシェア (share) している。報酬は GP 共同組織から支払われている。

素晴らしい制度だ、と感じた。Jamison 医師と対話していると、頭脳明晰で信頼される人格が伝わってくる。本邦ではこのような職種は実行可能だろうか。読者のご意見を賜りたい。

## 高齢者の問題

NZ では本邦と同様、高齢化が大きな社会問題である。高齢者対象の Elderly Care Hospital は急性の問題を扱って入院は数週間以内、その後はナースングホームに入る。介護の重症度によって

- ①痴呆や身体的にかなりの障害を伴い full nursing が必要
  - ②多少の援助が必要
  - ③自立が可能
- と 3 段階に分かれている。この評価は assessment organizing committee という私立の機構が行ない、経費も支払う。高齢化により現在さらに需要が高まっている。

## 生活習慣病

NZ で最近多く見られる疾病は、本邦と同じく生活習慣病である。肥満、糖尿病などが増加し、素因も多少関係があるが食生活の変化が主な原因だ。タバコの宣伝は、小さな表示に規制されている。タバコ会社は、健全なスポーツのスポンサーとはなれない。最近では non-smoking rock concert など企画されている。アルコール依存症については、欧米ほど多くない。

## 歯科は自由診療

歯科医の診療費にはやや問題がある。歯科医師会は従来国の政策に応じず、全額自由診療だ。ただし 18 歳以下では、国が全額負担する。19 歳以上では、すべて自費で自由診療である。NZ では金歯は稀で、通常白色の歯とする。美容的に高品質な歯は 900 NZ ドル、単にアマルガムで充填するのは 60—100 NZ ドルほどという。

## おわりに

NZ の医療で特徴的なものは、①急性はすべて無料 ②収入に応じて国が負担 ③リエゾン GP という職種であった。本稿が本邦の総合診療の発展に少しでも参考になれば幸いである。

▶著者連絡先  
http://www.3.ocn.ne.jp/~biomusic/



●クライストチャーチ病院救急部でリエゾン GP を務める Jamison 医師 (左)、ER 受付の様子 (右)